

Ⅲ ホームルームにおける自治活動

② 高校の場合 ——ロングタイムを中心として——

米 山 誠

1. 本校における

ロングタイムの実施状況

本校では週1回、毎週木曜日の第6時限が、ホームルームロングタイムとして設定されている。学校行事と重なる時を除き、ロングタイムは生徒の自主活動の場として、生徒の手によって計画させ、実施させている。生徒部としては、各学期の始めに、その学期分のロングタイム計画表を各ホームルームの責任において作成させ、それを集約して全体の一覧表を作り、必要に応じて指導することになっている。

ロングタイムの実際的な運営は各ホームルームそれぞれの方法によって行なわれているが、たとえば、室長・副室長の他に2～3名の委員を選出してホームルーム運営委員会を設け、その委員会が中心となって計画したり、実施の準備をしたりしているところが多い。生徒部では毎月1回、各ホームルーム委員打合会をひらき、ロングタイム・ショートタイムなどの実施状況の報告、意見交換などを行なわせることにしている。

ロングタイムの実施状況として全般的に言えることは、各ホームルームとも一般生徒に積極的な関心がないということである。計画立案の段階で十分な協議がなされないまま一部生徒のその場の発言によって計画が左右されてしまうことが多い。その結果として無計画なあるいは準備不十分なままで実施に移したり、その場になって準備の要らない安易な活動に予定変更したりして、ロングタイムをいい加減に費していくことになりやすい。したがって、そのような充実感のないホームルーム活動に対して、ますます無気力無関心となり、沈滞した状態が慢性化する。しかも、そのような状態に対して担当が積極的に指導助言しようとする、生徒はそれを必ずしも歓迎するとは限らない。むしろ、迷惑そうな、あるいは反抗的な反応を示しさえする。

それでは、生徒はロングタイムの必要性を認めていないのかというと、そうではない。3年生のあるホームルームで、「ロングタイムは必要と思うか、不必要と思うか」「ロングタイムの時間は何分位が適当と思うか」という簡単なアンケートを行なったところ、90%以上の者が、「必要」と答え、「現状(50分)」ま

たは「それ以上」と答えている。要するに、ロングタイムの自主活動を意欲的に行なっていないが、その必要性は十分に感じているものといえよう。ロングタイムの現状に不満を感じながらも、生徒自身の手による自主的運営を任せられた唯一の時間であるという意識や無気力ではあっても主体性は侵されたくないという意識は強く働いているものと思われる。以上のような実情を手がかりとして今後の指導を考えていかなければならない。

次に45年度第1学期に本校で実施されたロングタイムの内容を分類して表示してみよう

45年度第1学期ロングタイム実施内容テーマ別分類表

分類	内容・テーマ	延べ回数				平均回数
		1年	2年	3年	計	
討論 話し合い	○制服制帽	3	4			4
	○クラブ全入制	1				
	○HRのあり方、LTの運営	3	2	3		
	○私達の長所・短所	1				
	○18才未満への制約	1				
	○生徒会	3	3	3	38	
	○ロングタイムの反省	1				
	○大学受験体制			2		
	○文化祭・体育祭			4		
	○日米安保条約			2		
スポーツ	○ソフト					3
	○バレー					
	○水泳	8	9	8	25	
	○フォークダンス					
趣味 教養	○8ミリ映画鑑賞					1
	○スライド鑑賞					
	○レコード鑑賞・合唱	3	5	3	11	
	○読書会					
娯楽 その他	○ゲーム					2
	○散歩					
	○料理	7	6	6	19	
	○作業					

上記のような内容で1学期のロングタイムは実施さ

れたが、これらの中で生徒が最も積極的に活動するのはスポーツである。スポーツの実施回数は各クラス平均3回となっているが、これは施設を中学・高校の各学年ごとに交代して使用しなければならないので回数に限られているわけである。討論の回数は各クラス平均4回で最も多いが、現実には、発言が一部の者に限られて、なかなか盛り上がらない。討論のテーマを生徒会活動と関連させ、生徒の学校生活と現実的具体的に結びつくものにすることが望まれるが、生徒会活動が沈滞しているので、現在直ちにそれを期待することはできない。今後、生徒会およびホームルームの自主活動を活発化するため最も大切なことは、生徒会とホームルールとをいかにして有機的に結びつけるかということであり、いかにして活動に具体的な目標を持たせ、また、自主的な集団活動の意義を生徒一人一人に

実感させるかということであろう。

2. ホームルームの自主活動に対する生徒の意識と問題点

生徒は現在のホームルームの自主活動に対して、はたしてどのような意識をもっているのだろうか。生徒部として、生徒の自主活動指導の手がかりとなる資料を得るために実施した調査の結果を次に記してみよう。

○調査の対象——本校高校生全員（各学年3クラス全9クラス）

○調査の方法——10項目のアンケートをクラス単位に実施し結果をまとめた。（男女別は考慮に入れなかった）

○調査の時期——45年10月下旬

(1) ホームルームの自主活動に対して興味や意欲をもっているか。

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	3 C	1年	2年	3年	合計
つよくもっている	3	4	6	3	1	3	2	5	1	13	7	8	28
かなりもっている	11	9	10	9	13	11	6	5	7	30	33	18	81
どちらともいえない	20	23	18	20	16	20	27	20	18	61	56	65	182
あまりもっていない	4	5	6	6	6	8	5	5	8	15	20	18	53
全然もっていない	4	4	5	3	5	1	4	7	8	13	9	19	41
合計	42	45	45	41	41	43	44	42	42	132	125	128	385

(2) ホームルームで物事を決めて実施する場合民主的なルールに従って行なわれていると思うか。

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	3 C	1年	2年	3年	合計
きわめて民主的	2	3	2	1	0	1	2	3	1	7	2	6	15
かなり //	15	15	9	12	6	4	6	8	10	39	22	24	85
どちらともいえない	15	20	18	12	13	14	27	19	15	53	39	61	153
あまりよくいっていない	7	3	10	11	12	21	5	9	8	20	44	22	86
全然うまくいっていない	3	4	6	5	10	3	4	3	8	13	18	15	46
合計	42	45	45	41	41	43	44	42	42	132	125	128	385

(3) 生徒会の執行部や協議会とホームルームの相互の連絡は密接に行なわれていると思うか。

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	3 C	1年	2年	3年	合計
非常に密接	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4	0	4
かなり密接	2	3	0	3	6	5	1	1	3	5	14	5	24
どちらともいえない	13	11	3	11	14	4	13	11	13	27	29	37	93
あまり密接でない	15	25	28	18	7	19	21	21	15	68	44	57	169
全く密接でない	12	6	14	9	11	14	9	9	11	32	34	29	95
合計	42	45	45	41	41	43	44	42	42	132	125	128	385

(1)において「興味・意欲をもっている者」の数が全体の約1/4。それに対して、「興味・意欲をもたない者」の数がやはり、全体の約1/4である。後の2/4は両者の中間でどちらともいえない者である。

(2)において「民主的に行なわれている」と思う者は全体の約25%、それに対して「民主的に行なわれてい

ない」と思う者の数は約35%である。

(3)において「密接に行なわれている」と思う者が全体の約7%、それに対して「密接に行なわれていない」と思う者は約70%である。現在の生徒会、ホームルームを通じての生徒の自主活動の最大の問題点が表われているように思われる。

(4) ホームルームの諸活動に対して学校や担任からどの程度の指導を得たいと思うか。

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	3 C	1年	2年	3年	合計
積極的にしてほしい	2	3	1	0	2	2	0	0	0	6	4	0	10
かなりしてほしい	3	2	1	2	1	2	0	0	1	6	5	1	12
何ともいえない	11	16	14	13	19	14	14	14	8	41	46	36	123
あまりしてほしくない	11	19	11	17	12	19	16	15	19	41	48	50	139
全然してほしくない	15	5	18	9	7	6	14	13	14	38	22	41	101
合計	42	45	45	41	41	43	44	42	42	132	125	128	385

「担任の指導を得たい」と思う者は約6%。それに対して、「担任の指導を望まない」者は62%以上である。ロングタイムの実情が不活発で沈滞はしていても

学校や担任の指導を望まないのは、学校や担任の指導を、干渉、介入と感じ、生徒の自由が侵されるのを警戒する心理が働いているのであろうか。

(5) 自分たちのホームルームにおけるロングタイムの現状は充実していると思うか。

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	3 C	1年	2年	3年	合計
非常に充実	0	0	2	1	0	1	1	1	0	2	2	2	6
かなり充実	2	2	2	4	1	0	5	5	6	6	5	16	27
どちらともいえない	16	12	7	11	3	13	17	17	12	35	27	46	108
あまり充実していない	18	23	24	18	14	21	14	13	15	65	53	42	160
全然なっていない	6	8	10	7	23	8	7	6	9	24	38	22	84
合計	42	45	45	41	41	43	44	42	42	132	125	128	385

「充実している」と思う者は約8%。それに対して、「充実していない」と思う者は63%である。こう

した数字の傾向は(1)(2)(3)(4)の場合とすべて深い関係をもって現われていることは当然である。

(6) 自分たちのホームルームにおいてショートタイムは生徒の自主活動のために活用されていると思うか。

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 B	3 C	1年	2年	3年	合計
きわめて有効に	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2	3
かなり活用	6	7	2	2	2	3	7	7	3	15	7	17	39
何ともいえない	13	12	11	5	5	7	8	8	8	36	17	24	77
あまり活されない	18	15	16	19	11	20	17	15	13	49	50	45	144
全然活用されない	5	11	16	15	23	12	11	11	18	42	50	40	122
合計	42	45	45	41	41	43	44	42	42	132	125	128	385

本校のショートタイムは毎日昼食時に行なわれ、担任生徒間および生徒相互間の諸連絡、または生徒会とホームルームとの連絡や必要事項の協議などに使われ

ている。このショートタイムが活用されているかいないかということは、日常のホームルームにおける諸連絡や協議が滞りなく活発に行なわれているかどうかの

バロメーターといってもよいであろう。調査の結果から見ると、「活用されている」と思う者は11%。「あまりあるいは全然活用されていない」と思う者は約70%である。やはり、これも前記の(1)から(5)までの調査の結果とすべて深い因果関係をもっているものといえよう。

(7) ホームの自主的な活動を行なうとき、とくに困ること、不満に思うことがあるか。

次は答えを典型的にまとめて、数の多かったものから順序にならべたものである。

- ① 「みんながまとまらない。」「非協力的な人が多い」「勝手にグループに分かれやすい」「クラス内の他人のことを考えない勝手な人がいる」
- ② 「みんなの意見が出ない。」「発言が一部にかたよりがち」「無責任な発言が多い」「少数意見が尊重されない」
- ③ 「先生が干渉する」「先生が口出ししすぎる」
- ④ 「計画をしっかりと立てることができない」「準備不足になりやすい」「工夫不足」「マンネリ化」
- ⑤ 「ロングタイムなどホームルーム活動の意義目的がわからない」「学校から毎週1時間ずつ与えられているという形が非常にまずい。だからみんながよけいやる気をおこさない」「学校からのおしつけ」
- ⑥ 「時間が足りない」「活動の場所や設備が足りない」
- ⑦ 「リーダーがいない」
- ⑧ 「受験勉強のためにサボって帰ってしまうものがある」

記入者は全体の約1/3で、1年、2年、3年の順に数が減っている。

(8) 過去のロングタイムで非常によかったと思うものがあるか。その活動の内容、テーマはなにか。(よかったという理由はなにか。)

- 討論、話しあい(28)
「文化祭について」「安保条約について」「高校生の政治活動について」「制服制帽について」「生協食堂利用について」
- クラス全員の意見発表(3)
「自分の将来の進路について(3年)(みんなの考えがよくわかり参考になった)」
- おたがいに反省しあう試み(2)「級友の長所短所」を紙に書き交換し全員の前で発表しあう。(楽しかったしクラスのふんい気がよくなった)
- レコードコンサート(2)
- サッカー、ソフト、バレー、水泳など、とくに学年合同のサッカー試合(20)
- ゲーム(級友や先生と親しめた)(26)

- 料理(協力しあえて楽しかった)(18)
- 散歩(9)
- 体育祭、文化祭等の練習や準備(みんな熱心に協力しあった)(10)
- フォークダンス(4)
- 教生との話しあい(2)

記入者は全体の約半数である。

「討論・話しあい」が「スポーツ」より多いのは意外であった。討論の場合、一般的に不活発に見えるが、比較的身近な問題を取り上げたり、討論の方法に少しでも新しい工夫を加えたりした場合、興味をもつかもしれない。しかし記入者の絶対数があまりに少ないので多数生徒の意向がわからない。

(9) 今後のロングタイムの活動としてぜひやってみたいと思うことはなにか。

- 討論会、学年合同討論会、全校合同討論会等(4)
「青春について」「高校生活について」「生徒会、ホームルームのあり方について」「人生について」「趣味について」「将来の夢について」「政治について」
- グループに分かれての気軽な話しあい。キャンパススピーチ等(11)
「恋愛論」「友情論」「入試対策」
- スポーツ(16)
- 料理(14)
- 散歩、ピクニック、写生等(9)
- 芸術鑑賞(演劇、美術、映画など)、自作の映画やスライドの発表(5)
- レコード鑑賞、のど自慢等(4)
- その他学級花壇をつくること、大そうじ、性教育、読書会、奉仕活動等
記入者は約半数である。

(8)と関連して、ここでも、「討論会」が最も多い。級友がそれぞれ、人生、社会、学校生活、将来の方針などについて、どう考えているのかについて強い関心を抱き、自分自身の直面する問題を個人的ではなく、集団的に考え合っていきたいという希望が強いようである。それにしても、これらの希望が、ロングタイムの計画・実施の段階で十分に反映されないところに大きな問題があると言えよう。

(10) 今後自分たちのホームルームにおけるロングタイムをもっと充実させていくにはどうしたらよいか、どんな方法が考えられるか。

- 「全員が積極的に参加できるものを選ぶ」(26)
- ホームルーム運営委員(企画委員)が計画や準備をもっとしっかり行なう。(15)

- 「全員の自覚をうながす」「個人個人ホームルームに対する意見をもつように義務づける。」「機会あるごとに話しあいを行ない問題を意識させる。」等 (10)

「現実的な問題から考えていくようにする。」

- 「教師がタッチしないようにする。」「生徒がもっと中心になり権限をもつ」等 (6)
- 「ホームルームとはなにか、ロングタイムとはなにかについて考える。」 (6)
- 「ロングタイムの時間をふやす」「ロングタイムの時間を他の行事などでつぶさない」「ロングタイムとは別にアセンブリーの時間を設ける」「1週1時間を2週2時間に」等 (5)
- 「レクレーションを大いにとり入れる」 (6)
- 「先生の協力を得てホームルーム内の連帯意識を育てる」 (3)
- 「リーダーを養成する」 (3)
- 「テーマを決めて全校の討論会を行なう」「合同(学年単位)討論会を行なう」等 (3)
- 「先生のしつこいほどの指導をのぞむ」 (1)
- 「討論の仕方を研究する」 (1)
- 「他校の状況を調べて参考にせよ」 (1)
- 「施設・設備を最大限に活用する」 (1)
- 「身近な問題についての討論を多くする」 (1)

記入者は約1/4で、(1)において「興味・意欲をもっている」と答えた者の人数が全体の約1/4であったのと一致する。ここに述べられているような意見を、どのように具体化し実現していくかということが、今後のロングタイムの進め方、ホームルームにおける生徒の自主活動の進め方の課題であると言えよう。

3. 今後の指導について

(1) ホームルーム担任の適切な指導

「指導してやる」という意識をあらわに出さず、生徒と同じホームルームの一員であるという態度で、特に、活動の企画・準備の過程で、生徒の主体性を重ん

じつつ適切な助言をすることが必要であると思う。実施に際しては生徒の中に溶けこみ、共に活動することが大切であると思う。教師の発言が多すぎると、たとえ、それが善意で建設的なものであっても、生徒は干渉・介入という受け止め方をしやすい。調査の結果にも見られるように、全校の63%の者が「担任の指導を望まない」と答えている。しかし、これは「必要以上の指導は望まない」ということで、むしろ生徒とともに考えたり活動したりすることは望んでいると理解すべきであり、教師としての意見は押しつけにならないように配慮しながら、やはり積極的に示すことが必要であろう。

(2) 教師相互間の意志の疎通

ホームルームにおける自主活動の指導といっても、担任だけでできるはずがない。全教師の共通の認識がなくてはならない。困難な問題もあるが、全教師の経験交流、意見交換、研究の機会をできる限り多くもつことが必要である。

(3) 生徒会、クラブにおける指導との関連

生徒の自主活動はホームルームだけ切り離して考えることはできない。生徒会、クラブ、あるいは授業もひっくめて生徒の自発性を伸ばす視点で考え、密接に関連させるようにしなくては効果は望めない。

(4) 各ホームルームのリーダーの指導

生徒部による各ホームルーム運営委員の連絡会を有効に活かして、相互の情報交換を活発に行なわせ、よりよい方法や困難解決の方法を工夫させる。

(5) 生徒全員への責任分担

各ホームルールとも、活動の計画、準備をなるべく全員の生徒が最低一度は経験するように、年間計画の中で責任を分担させることが望ましい。

(6) その他

自主活動における生徒の自由の保証、学校としての指導体制のあり方等の問題について今後、慎重に検討していかなければならない。